

行末とはき
いかに楽しく
こゝらの月日
あはれ幸なき
病める友をば
曾て遊びし
君病みまして
さまよふ心

* * *

世の春を
夢みつゝ
すぎけむを
わが友よ
たすけつゝ
その浦に
今ひとより
如何ならむ

* *

涙に似たる
物思ふ窓に
世をうくひすの
垣の紅梅

春の雨
瀟々夕
聲かいて
花は落ちぬ

友のつどい

つねを

まなひの窓のはらからよ

今日のつどひの嬉しさに

幼なごころのうつくしく

ともに語らぬいつまでも

心の友のここかしこ

群れあふれたるこのむしろ

はたるも雪もふもはずて

樂しき節をあはせまし

花の袂 全 人

かすみ春野に
すみれ蒲公英
はなの袂に
摘むうれしさを
わがたらちねに

もえいづる
つくづくし
あまるまで
門にまつ

はなの袂に
摘むうれしさを
わがたらちねに

あまるまで
門にまつ
わがたらちねに

わがたらちねに